



第1回 審議会のふりかえり

01

第四次答申について

① 門真のめざす教育

- 子どもたちの将来の自立に向けて大切にしたい、3つの人と「のつながり」
- ・**縦のつながり**（異年齢や異学年・大人など）
- ・**横のつながり**（同学年、同級生、地域など）
- ・**将来の自分とのつながり**（今と将来の自分とのつながり）

② 具体的提言

- ・第四中学校区内の小学校及び中学校の再編について ⇒ **（仮称）門真市立水桜学園が令和8年度に開校予定**
- ・第四中学校区、第五中学校区の校区変更について ⇒ **江端地域の通学先の考え方についての方向性を示す**
- ・第五中学校区校区の再編について ⇒ **四宮小学校と北巣本小学校を統合予定**



02

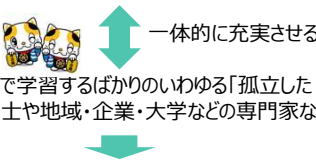
令和の「日本型学校教育」について

① 個別最適な学び

「指導」や「学習」を個別化させ、「よりその子に合った指導や支援」を充実させる

② 協働的な学び

「個別最適な学び」が、一人で学習するばかりのいわゆる「孤立した学び」に陥らないよう、子ども同士や地域・企業・大学などの専門家など、「多様な他者と協働」する



学び方だけでなく、「これからの教育に適した学校施設の整備」もあわせて必要

出典: Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ<中間まとめ> 令和3年12月24日 内閣府総合科学技術・イノベーション会議教育・人材育成ワーキンググループ

03

門真市立学校の校舎について

① 教育環境の変化

これからの教育に適した学校施設の整備が必要。

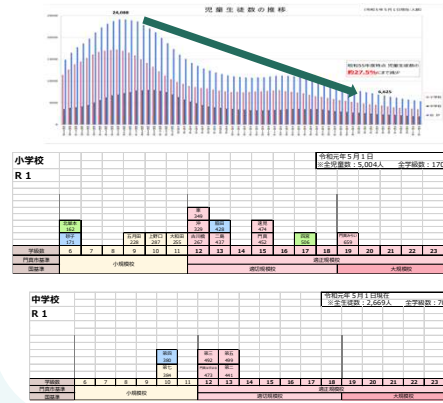
② 校舎の老朽化

築50年以上の学校が大半で老朽化への対応が必要

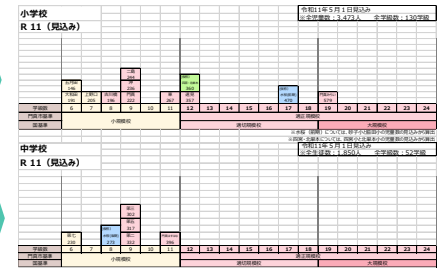


04

児童生徒数の推移

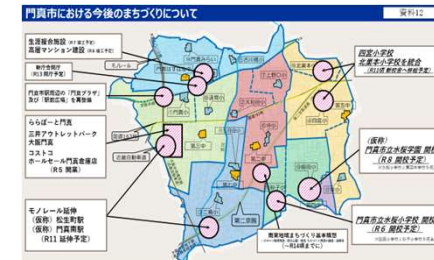


- ・児童生徒数は、ピーク時に比べ、令和5年時点で約27.5%まで減少
- ・**小学校では単学級、中学校では2クラス以下など、適正規模とは言えない状況**



05

今後のまちづくりについて



- ・今後大きくまちづくりが進む予定であり、まちづくりの視点も含め、今後の学校のあり方を検討いただきたい。
- ・四中校区では、令和8年度に（仮称）門真市立水桜学園が開校予定であり、「令和の日本型学校教育」や「門真のめざす教育」にある「つながり」の視点を大切にしたい個別最適かつ協働的に学べる校舎等の整備をしている。

